

新基地建設に道理なし

海保の妨害
ずさんなアセス



安倍首相を追及する赤嶺議員＝1月30日、予算委員会

「海保はいつから米軍・防衛省の警備員になったのか」
「明らかに過剰警備」と赤嶺議員が威圧・妨害に強く抗議



海上保安本部に抗議する赤嶺氏（中央）ら県選出国会議員ら＝1月23日、那覇市

民の抗議活動や報道機関等による取材活動を暴力的に威圧・妨害していると厳しく抗議しました



海上で作業強行にカヌーに乗って抗議する人たち＝1月15日、沖縄県名護市

さに馬乗り状態だ。明らかに過剰警備だ。

●赤嶺議員 足

を肩にかけてま

警備活動の事例を紹介。1月20日に海上保安官が抗議船に乗りこみ、映画監督の影山あさ子さんに馬乗りして押さえつけ、カメラを奪おうとする事態が発生し、地元紙はこれを4枚の連続写真で報じたことを指摘しました。

●赤嶺議員 「海保はいつから米軍や防衛省の警備員になったのか」との声が上がっている。何の為に海域に出ているのか。

○太田昭宏国交相 現場海域の安全を最優先に考えている。過剰警備にならぬように伝えている。

赤嶺議員は「安全確保」と言うが、逆に警備活動によって人が続出している」と述べ、暴力的な

○太田国交相 写真の見方だと思う。女性の身体を保持するための行為と報告を受けている。

赤嶺議員は、海保は当初「女性をまたいで船体後部へ通り抜けようとしていた」としながら、連続写真が報じられると説明を変えたことを指摘。現場が、政府の設定した立ち入り制限区域外であることもふれ、「暴力的な警備活動をやめさせるべきだ」と求めました。

手順も中身もでたらめな「史上最悪の環境アセス」
新基地建設は直ちに中止すべき

赤嶺議員は新基地建設に伴う環境アセス（影響評価）のデータラメをただしました。

アセスは方法書、準備書、評価書という段階を踏みながら、それぞれの段階で自治体や住民の意見を反映させて進めるのが本来の手続き方法ですが、防衛省は2007年、アセスの第1段階である方法書

提出以前に、海上自衛隊の掃海母艦まで出動させて環境調査を強行。そのやり方は専門家が「史上最悪のアセス」と指摘するほど乱暴なものでした。

赤嶺議員は専門家が「ジュゴンを追いつつた後で調査し、付近にジュゴンは生息していない」と結論付けたものだ」と指摘していることも示し、「乱暴なやり方で海域をかく乱してしまっ」と指摘。

●赤嶺議員 軍艦まで派遣して、ジュゴンを追い払って調査をする。あまりに手続きを踏み外したものだ。

○中谷防衛相 丁寧にアセス調査をした。

まともに答えられない防衛相。赤嶺議員は、他にも▽方法書は2度にわたって追加・修正資料を提出▽未明に県庁の守衛室に運び込んで評価書を提出▽最後の評価書段階で配備機種をCH46ヘリから垂直離着陸機オスプレイに変更するなど違法・不当なアセス手続きだったことを指摘しました。なかでも、オスプレイの配備は、1996年のSACO（沖縄）に関する日米特別行動委員会、合意の草案に明記されていたことが判明していると迫りました。

●赤嶺議員 配備機種がオスプレイであることを方法書の段階で示すことが可能だったのに、県民の反発を恐れて隠したのではないか。

○中谷防衛相 オスプレイ（の配備）は平成23年（2011年）6月6日の米国防省の発表後に承知したことだ。

赤嶺議員は十数年前からオスプレイの配備について国会で指摘し、中谷氏に答弁も求めてきたとして、「そんな言い分は通らない」と批判。「新基地建設は法律上の手続きにも大いに問題があり、ただちに中止すべきだ」と強調しました。